

ワーナー・クラシックス オリジナル楽器シリーズ  
**オリジナル**

**Originale**  
 Period Instrumental Series

**第1回(40タイトル) 2015年3月11日 発売**

**第2回(40タイトル) 2015年4月8日 発売**

1枚組	2枚組	3枚組	4枚組
¥1,400(本体)+税	¥2,300(本体)+税	¥3,100(本体)+税	¥3,800(本体)+税

バッハやモーツァルトの「時代の音」。

テルデック&エラートの貴重なオリジナル楽器録音、待望の再発売！

メジャー各社、古楽の専門レーベルを設立しており、中でもテルデックとエラートは最古参のレーベル。約50年前よりテルデックでは、オリジナル楽器を用いた演奏の録音を開始しており、当時は“斬新なレーベル”として一世を風靡。

当時発売となったアルバムは廃盤となっているものも数多く、この度貴重な作品を再発売！

作品や演奏の理解を深めるには不可欠な、日本語解説・歌詞対訳付。

ジャケットは、できるだけオリジナルなものを使用。

このシリーズは、日本盤のみの発売です。



ワーナーミュージック・ジャパン  
 オフィシャル・ホームページ/クラシック [wmg.jp/cla/](http://wmg.jp/cla/)



## 明日を書き換える古楽～オリジナーレ

音楽評論家 矢澤孝樹

古楽ファンよ、いやそうでない人々も、この「オリジナーレ」に、すべからく刮目せよ!…このような命令形を使うことが礼を失っていることは百も承知だが、それでもこの凄まじい量と質の再リリースを見たら、冷静でいることは不可能だ。

テルデックとエラート。それぞれ、ドイツとフランスを代表する偉大なローカル・メジャー・レーベルであり、1980年代にワーナー傘下に入ってから、それぞれ独自性豊かな盤をリリースし続けた。特に古楽の分野において両者ともに力強い牽引車となってシーンを活性化させたことは忘れられない。テルデックにおけるアーノンクール、レオンハルト、ブリュッヘン、イル・ジャルディーノ・アルモニコ、シュタイアー、コンチェルト・ケルン、シャンティクリア。エラートにおけるガーディナー、アラン、コープマン、ロス、クリスティ、ア・セイ・ヴォーチ、ルセ、リュビモフ…。なんと輝かしい星座だろう!

だが、クラシックCD制作をめぐる状況が変化する中でテルデック、エラートともに2001年に開店休業状態となり、海外ではワーナー・クラシックス企画での再発と編集を繰り返し、オリジナルの輝きは失われた(日本のワーナーが廉価盤等でレーベル・カラーを保つべく奮闘していたことは記憶されて良い)。エラートの名は、新ワーナー・クラシックスで嬉しいことに復活したが、旧ヴァージン・クラシックスの延長線上にある(むしろそれも歓迎されるべきことだが)。

だが、レーベルの個性が記憶の彼方に消えることを防がんと、ここに「オリジナーレ」シリーズが登場する。またしても日本の制作陣がやってくれた。安易な廉価ボックス化をよとせず、一枚一枚のキャラクターを尊重しすべてをできるかぎりオリジナルのままに、1960年代から2000年代までの、両レーベルの名盤が80タイトルも復活する。

セレクションもまた、瞠目すべきものだ。上述したアーティストをはじめとする新旧の古楽の名手名歌手たちによる、中世からロマン派までのレパートリーが登場するが、大文字の名曲・名盤のみならず、一回発売されただけで姿を消した幻の録音一特に1980年代以降一が数多く復活しているのも喜ばしい(コープマンの「魔笛」の初CD化! シュタイアーとリュビモフの競演など!)。レパートリーも、メキシコのバロック音楽があり、コレア・デ・アラウホのオルガン曲集があり、ゴセックやジルーストの宗教音楽が、サリエリやシュテファンピアノ協奏曲がある。どれもが、音楽史上重要な作品というだけでなく、古楽演奏史としても重要な位置にあることは言うまでもない。

これが全て日本語解説付というところがみそであり、歌詞付の作品は日本語対訳付で、一枚当たり税抜1400円(2枚組以上はそれ以下)という価格。これらの解説は、作品や演奏の理解を深めるには不可欠であり、さらに感動を倍加させる。1980~90年代の大量リリース時代に聴き逃した古楽ファンはもちろん、古楽にいまひとつ馴染めない聴き手の方々にも強くお勧めしたい。未知の驚きと興奮が、ここにはたくさん詰まっている。これら「オリジナーレ」を聴くことは、単に過去のアーカイブを紐解くことではない。正当に受け容れられず、不幸にも忘れられた演奏も多く含む、古楽演奏の偉大な創造の軌跡をたどり、気づかぬ間に古楽が書き換えていた、演奏の現在と未来について思いをめぐらすことなのだ。

### オリジナル楽器での演奏

バッハ、ヴィヴァルディ、モーツァルト、ベートーヴェン…それぞれの時代には、現代使用されている楽器とは異なったタイプのものが使用されていた。木管楽器はキーが少なく、金管楽器にはピストンもなく、鍵盤楽器も音を出す仕組みが異なっている。「ストラディヴァリウスなどのヴァイオリンは300年前に作られた」といっても、現代使用されている名器のほとんどは、現代用に改造されている。現代の楽器に比べると、当時の楽器は確かに演奏技術を要することも多いが、その「時代」が要求した音が発音される「完成された楽器」なのだ。また演奏法についても、現代に多用されるヴィブラートは1940年以降に通常に使われるようになったもので、それまでは装飾音として用いられていたものだ。それぞれの作曲家は、その時代の楽器から発せられる音と演奏法を想定し作曲していたわけだから、バッハもモーツァルトも現代楽器での現代奏法による演奏を聴いたら驚愕するであろうし、現代楽器を知っていたら全く違った音楽を書いていただろう。オリジナル楽器による演奏は、現代では難解だった作曲家の音使いの理由が、当時の楽器を弾くことで解き明かされることとなり、「古い名画を修復したら隠れたものが現れた」と例えられるように、1900年代に加えられたロマンティックな味付け(まさにこれこそが、その時代が要求したものが)が拭かれ、クリアで新鮮な音楽がよみがえることとなる。

この「オリジナーレ」シリーズは、オリジナル楽器による演奏を集めたシリーズである。このシリーズの中には、現代人が求める真実が隠されている。



フルート



オーボエ



トランペット



上は、バロック時代の弓  
下は、現代の弓



チェンバロ



フォルテピアノ

#### 【フルート】

バロック時代、フルートは「笛」全般を指す言葉だった。「縦笛」は「リコーダー(英語)」または「ブロックフレーテ(独語)」、「横笛」は「フラウト・トラヴェルソ」とよばれ、現代のフルートとは異なる楽器を指していた。金属製の楽器が現れたのは1900年以降で、それまでは木製。バロック時代ではキーは1つ。古典派時代でもキーは4つ程度のものを使っていた。現代楽器に比べて音は小さいが、素朴で柔らかく、深みのある音色が特徴。

#### 【オーボエ】

フルートと同じようにキーは1~4つ。葦笛が祖先で、人の声にも似ている音色が印象的。バロック時代ではヴァイオリンと同じ旋律を奏することも多く、旋律の表情を豊かに伝える役割を受け持っていた。

#### 【トランペット】

「信号ラッパ」と同じく金属の管を巻いただけのシンプルなもの、唇の操作だけで音を吹き分ける。出せる音階は自然倍音のみで、ドレミ…の音階を出すため、管の長さは現代トランペットの倍の長さだった。また高域での超絶技巧が必要とされるため、当時のトランペット奏者は格別な扱いを受けていた。ピストンやヴァルヴが付けられたのは、シューマン以降のことだ。

#### 【ホルン】

バロック時代では狩猟ホルンに近いものが使用されていたため、トランペットと同じように唇だけで音階を奏していた。モーツァルトの時代になると、右手をベルの中に入れて管を塞いだりする操作をすることによって、半音階を奏することが可能となった。ただし音によって音色にムラができることもあり、その表情がこの時代の音楽を色付けしている。この楽器もヴァルヴが付けられたのはシューマン以降のことだ。ブラームスがその新型楽器を使用することを拒んだ、という逸話もある。

#### 【リュート】

中近東の民俗楽器「ウード」から派生した楽器で、東洋に伝わって「琵琶」、西洋に伝わって「リュート」となった。琵琶型の丸い胴に、6~11コースの弦が張られている。繊細な美しい音色が宮廷でもてはやされ、貴族たちがこぞって楽器職人に上品で高価な楽器を作らせた、といわれている。

#### 【ヴィオール】

小型から大型まであり、チェロのように膝に挟むか、膝の上に立ててかまえ、弓をスプーンのように持って演奏する。胴体裏は平らで、調弦法もヴァイオリンとは異なり、フレットも付いている。ルネッサンス時代にはその繊細な美しい音色は宮廷でもてはやされたが、バロック時代以降は、より音が大きいヴァイオリン属へ受け継がれた。チェロとほぼ同じ大きさのヴィオール「ヴィオラ・ダ・ガンバ」は、古典派時代手前まで使用されていた。

#### 【ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ】

上記のヴィオール属から派生した楽器ではなく、1550年頃に誕生した新楽器。現代に残される当時の楽器は、1900年頃以降に、音を大きく鳴らすために改造されたものがほとんどである。見た目は変わっていないが、金属弦が張られ、ネックに角度が付けられ、内部も改造されている。現代の弓はどこで弾いても均一な音が出るような逆弓型だが、当時は「弓型」。それを当時の形に戻し、羊腸弦(ガット弦)を張ることにより、渋めながらもニュアンスの豊かな音色が奏でられる。

#### 【チェンバロ】

「ピアノの前身」といわれることもあるがそれは間違い。鍵盤からつながれたジャックが弦をひっかけて発音する機構なので、異なる構造の楽器である。ピアノのように鍵盤のタッチによる音の強弱は作れないものの、チェンバロ奏者は楽譜に書かれていない細かい音型を読み取り、絶妙なタッチによって表現し、美しい空間を生み出す。貴族の高価な家具や調度品としての価値も求められ、贅沢な装飾が施されているものが多い。

#### 【フォルテピアノ】

弦をハンマーで叩く機構により音の強弱が発せられるこの楽器は、バルトロメオ・クリストフォリによって1700年頃に発明されたと言われている。金属のフレームが入っていない軽い木製の胴体で、楽器全体が振動する。鍵盤も非常に軽く反応も敏感で、音域によって違った音色が出るなど、その特徴は、現代ピアノと全く異なっている。モーツァルトの時代からチェンバロに取って代わり、以降、時代が要求する音色へと改良が加えられていった。

## no.1 ヴィヴァルディ：四季

イル・ジャルディーノ・アルモニコ



WPCS-16101

イル・ジャルディーノ・アルモニコの大ヒット作にして、ロングセラー・アルバム。テオルボやオルガンも動員し、ビート感あふれる演奏が魅力。バロック演奏のひとつの極点と言える名盤。

録音：1993年9月

## no.2 戦いと嵐 ～ビーバー & ロック作品集

イル・ジャルディーノ・アルモニコ



WPCS-16102

バロック標音楽の傑作であるビーバーとロックの作品を中心とした、イル・ジャルディーノ・アルモニコの刺激的センスが光る作品。ヴァイオリンのE.オノフリによる即興的作品も収録。

録音：1998年1月、2月、4月

## no.3 ヘンデル： イタリアン・カンタータ集

エヴァ・メイ(ソプラノ)

イル・ジャルディーノ・アルモニコ



WPCS-16103

ソプラノのエヴァ・メイとイル・ジャルディーノ・アルモニコによる世俗カンタータ集。メイの若々しい魅力あふれる美声と技巧、イル・ジャルディーノ・アルモニコの刺激的な演奏のコラボレーションは必聴。

録音：1999年5月

## no.4 ヴィヴァルディ：リュート & マンドリンのための協奏曲集

イル・ジャルディーノ・アルモニコ



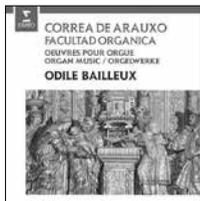
WPCS-16104

リュートとマンドリンのためのヴィヴァルディ作品の主要曲を収録。快適な躍動感に満ちた演奏を堪能できます！

録音：1990年12月、1992年4月、5月

## no.5 アラウホ：オルガン作品集

オディール・バイユー(オルガン)



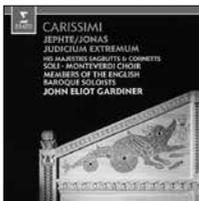
WPCS-16105

17世紀前半、主にアンダルシアで活躍したアラウホ。光と闇のような“対照性”を旨とする作品は、極めて個性的かつ官能的と言われる。オルガン史上、実に貴重な作品を復活させた、貴重な演奏の記録。

録音：1990年4月

## no.6 カリッシミ：最後の審判 ／ヨナス、イェフタ

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト団員 モンテヴェルディ合唱団



WPCS-16106

17世紀イタリアにおいて劇音楽におけるレチタティーヴォの発展につとめ、そこに感情を導入したカリッシミ。ここに収録されているオラトリオ3曲にも、その足跡が残されている。ガーディナーにより、物語の背景が紐解かれ、感動が深まる秀演。

録音：1988年10月

## no.7 ヘンデル： バレエのための音楽集

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト



WPCS-16107

バレエが盛んだったフランスの影響により、オペラの中にバレエをふんだんに取り入れたヘンデル。ガーディナーの手により、フランス風の優雅な雰囲気と満ちた音楽のさわやかさと心地よさを再認識出来る名盤。

録音：1984年3月

## no.8 F.クーブラン：コレリ讃 ／劇場用コンセール／リュリ讃

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト



WPCS-16108

コレリへの敬意、フランス音楽への讃歌。F.クーブラン独特の、優雅でリズミカルな作品3曲を収録。ガーディナーのタクトによる、曲に流れる“感情”のミクスチャーも聴きもの。

録音：1988年6月

## no.9 D.スカルラッティ： スターバト・マーテル

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト団員 モンテヴェルディ合唱団



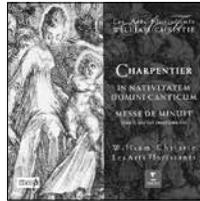
WPCS-16109

深い信仰心、マリアに対する感情が表出するD.スカルラッティの「スターバト・マーテル」。ガーディナーの統制のとれた指揮、モンテヴェルディ合唱団の見事な歌唱が感動を呼ぶ。

録音：1984年2月

## no.11 シャルパンティエ： 真夜中のミサ曲

ウィリアム・クリスティ(指揮)  
レザール・フロリサン



WPCS-16111

「クリスマス」を素材にした、牧歌的で美しいシャルパンティエの代表作。クリスティが、作曲者がイメージした厳かな聖夜の雰囲気を実現し、共感に満ちた演奏を披露している。

録音：2000年12月21日、22日

## no.13 シャルパンティエ： ヴェルサイユの楽しみ

ウィリアム・クリスティ(指揮)  
レザール・フロリサン



WPCS-16113

17世紀フランスの貴族になったような気分を味わえる優雅な1枚。フランス・バロック・オペラ復活の立役者となったクリスティによる、洗練度の高いアルバム。

録音：1995年5月20日～23日  
1996年4月19日～20日

## no.15 フォルクレ：クラヴサン作品集

トン・コープマン(クラヴサン)



WPCS-16115

父アントワーヌ・フォルクレのヴィオール作品を、息子ジャン＝バティストがクラヴサン用に編曲した作品集。厚みが増した音域を感じさせる荘厳な作品を、コープマンがあたかも魔術師のごとく、奔放に弾きまくる！

録音：1990年8月

## no.10 パーセル： 聖チェチーリアの祝日のオード

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト団員 モンテヴェルディ合唱団



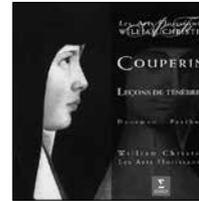
WPCS-16110

パーセルが音楽の守護聖人である“聖チェチーリア”をテーマに書いた4曲の中でも、最も優れているといわれている作品。ガーディナーの引き締まったディレクションが、パーセルの音楽美を十全に引き出している。

録音：1982年2月

## no.12 F.クーブラン： ルソン・ド・テネブレ

ウィリアム・クリスティ(指揮)  
レザール・フロリサン



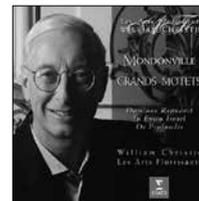
WPCS-16112

気負いを感じさせることなく清楚に歌い、クリスティのコントロールについていく2人のソプラノ。必要にして十分なる楽器のサポートにより、一点の曇りもない美しさ。絶品の『ルソン・ド・テネブレ』！

録音：1996年10月14日～17日

## no.14 モンドンヴィル：グラン・モテ集

ウィリアム・クリスティ(指揮)  
レザール・フロリサン



WPCS-16114

グラン・モテ(管弦楽伴奏のミサ曲)——立体的構造、フランスの独特なリズムと歌いまわし、響きの新鮮さやスケール感などによって、当時の息吹と伝統様式が対比する醍醐味を味わえる。17-18世紀ヨーロッパ作品の復活に大きく貢献するクリスティによる指揮。

録音：1996年6月18日～20日

## no.16 パレストリーナ： レクイエム／雅歌

シャンティクリア



WPCS-16116

パレストリーナの名曲を、男声声楽アンサンブル／シャンティクリアが質・量ともに絶妙なバランスで奏でる。清澄な世界観が表出する極上のサウンド！

録音：1994年

no.17 シューベルト：  
ディヴェルティメント集

アンドレアス・シュタイアー(フォルテピアノ)  
アレクセイ・リュビモフ(フォルテピアノ)



シューベルトの中でも非常に珍しい「ディヴェルティメント様式」作品。鬼才2人の個性がぶつかりあう、テンションの高い演奏が聴きもの。

録音:1997年1月

WPCS-16117

no.18 3つのリコーダーのための  
作品集

フランス・ブリュッヘン(リコーダー)  
クアドロ・オトテール



ブリュッヘンと彼の弟子たちによる貴重な記録。音色と表現方法の統一感により曲の本質が浮き出る。秘曲をあつめた名演。

録音:1978年

WPCS-16118

no.25 サリエリ & シュテファン：  
ピアノ協奏曲集

アンドレアス・シュタイアー(フォルテピアノ)  
コンチェルト・ケルン



映画『アマデウス』では悪者として扱われたサリエリの作品2曲を収録。シュタイアーの現代感覚あふれるメリハリの効いた表現が、サリエリ作品の素晴らしさを如実に伝える。

録音:1994年11月

WPCS-16125

no.26 メンデルスゾーン：  
ピアノ協奏曲 & 二重協奏曲

アンドレアス・シュタイアー(フォルテピアノ)  
ライナー・クスマウル(ヴァイオリン) コンチェルト・ケルン



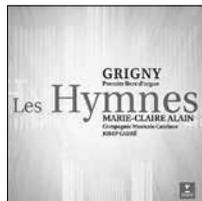
作品番号が付いていない、メンデルスゾーンの初期作品集。若き天才による美しきロマンの世界がここにある。

録音:1996年12月

WPCS-16126

no.19 ニコラ・ド・グリニー：  
オルガン作品集

マリー=クレール・アラン(オルガン)



グレゴリオ聖歌の賛歌をもとに、オルガンと聖歌隊が交互に壮麗な演奏を繰り広げる。1787~90年、クリコ製作の名匠による、彩りあふれる音響は圧倒的!

録音:1998年10月27日~11月1日

WPCS-16119

no.20 ヘンデル:オルガン協奏曲集

マリー=クレール・アラン(オルガン)  
フライブルク・バロックオーケストラ



ヘンデルのオルガン協奏曲から、傑作5曲を厳選。名器として名高い大オルガンを駆使し、フライブルク・バロックオーケストラをバックに、ゴージャスな演奏を繰り広げている。

録音:1998年6月14日~17日

WPCS-16120

no.27 ヴェネツィアのバロック

ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ



イタリア独特の粋な演奏を旨とする「ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ」。ヴェネツィア共和国に花開いた、華麗なイタリア・バロック音楽を堪能できるアルバム。

録音:1999年10月16日~18日

WPCS-16127

no.28 ラ・フォリア ~ 17世紀後半の  
イタリア・バロック音楽

ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ



フォリアやパッサカリアなど、17世紀後半のイタリアで栄えた音楽を、気鋭の古楽アンサンブルが様々な視点から検証し、演奏した作品集。

録音:2000年6月11日~14日

WPCS-16128

no.21 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ  
「悲愴」「月光」「ワルトシュタイン」

アレクセイ・リュビモフ(フォルテピアノ)



ベートーヴェンが愛したブロードウッド製のフォルテピアノで、鬼才リュビモフが現代的解釈で演奏。発売当時、高い評価を得たアルバム!

録音:1992年12月7日~12日

WPCS-16121

no.22 ヴィヴァルディ:協奏曲集

ジュリアーノ・カルミニョーラ(ヴァイオリン)  
ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ



ヴァイオリンの名手カルミニョーラが、オリジナル楽器アンサンブル「ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ」に参加していた時期のアルバム。ヴィヴァルディの音楽が、生き活きと流れるようによみがえる。

録音:1999年4月11日~14日

WPCS-16122

no.29 J.S. バッハ:トッカータ

曾根麻矢子(チェンバロ)



スコット・ロスの薫陶を受け、その演奏法を引き継いでいる曾根麻矢子が、美しく魅力的なバッハ像を描き出したアルバム。

録音:2001年8月6日~9日

WPCS-16129

no.30 ジュ・レーム  
~チェンバロに恋して

曾根麻矢子(チェンバロ)



ラモーやクーブラン、さらにカタロニア民謡までを収録。しなやかに、そしてスタイリッシュにバロック音楽を奏でた、チェンバロの魅力満載の作品集。

録音:1997年3月4日~6日

WPCS-16130

no.23 J.S. バッハ：  
宗教歌曲集(シュメツリ編)

クリストフ・ブレガルディエン(テノール) クラウス・メルテンス(バス)  
トン・コープマン(オルガン) ヤープ・テル・リンデン(チェロ)



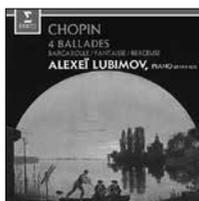
ツァイツ(ライプツィヒ南西)でカントルをしていたシュメツリが、バッハの協力を得て収集した宗教的アリアと歌曲集を、バッハのスペシャリストであるコープマンとブレガルディエンによる演奏で堪能。

録音:1999年

WPCS-16123

no.24 ショパン:バラード集 他

アレクセイ・リュビモフ(フォルテピアノ)



鬼才リュビモフがショパン時代の楽器を用いた演奏。グランドピアノにはない、繊細な表現や、楽器自体が鳴るダイナミックさによってショパン作品の新鮮な響きを堪能できる、貴重なアルバム。

録音:1992年5月

WPCS-16124

no.31 J.S. バッハ：  
ブランデンブルク協奏曲

イル・ジャルディーノ・アルモニコ



イタリア・バロックを中心に録音を行ってきたイル・ジャルディーノ・アルモニコが、バッハの名曲に挑戦!躍動感あふれるバッハが堪能できるアルバム。

2CD

録音:1996年10月、12月、1997年1月

WPCS-16131/2

no.32 シャルパンティエ：  
二重合唱のための宗教曲集

パトリック・ジュリック(ソプラノ) ドミニク・ヴィス(カウンターテナー)  
クリストフ・ブレガルディエン(テノール) クラウス・メルテンス(バス) 他  
トン・コープマン(指揮) アムステルダム・バロック・オーケストラ



シャルパンティエの創作の中核をなす数多の宗教曲集の中でも、イタリアの影響が強いオラトリオは必聴の作品。壮大な作品群を、コープマンと古楽界の名歌手たちが充実した演奏で聴かせる!

2CD

録音:1991年6月  
\* マスターテープに起因する音ゆれがございます。  
ご了承下さい。

WPCS-16133/4

no.33 **ダングルベール:チェンバロとオルガンのための作品集**

スコット・ロス(チェンバロ、オルガン)



ルイ14世時代のヴェルサイユ宮で、宮廷作曲家、クラヴサン奏者として活躍したダングルベール。独特な装飾音が多く、優雅さを旨とする作品を、スコット・ロスが歯切れ良いリズムで、知的に、清たく演奏している名盤。

2CD

録音:1987年10月

WPCS-16135/6

no.35 **太陽王ルイ14世の宮廷とオペラ座の舞曲~ヴェルサイユでダンス!**

クリストフ・フルセ(指揮) レ・タラン・リリク  
ユーゴ・レーヌ(指揮) ラ・サンフォニ・デュ・マレ



華やかなルイ14世時代の宮廷舞曲。当時出版された『舞踏記譜法』をもとに、研究者ランスロが選曲したバレ(バレエ)作品集。

2CD

録音:1994年12月、1995年1月  
1995年4月

WPCS-16139/40

no.37 **クーナウ:聖書ソナタ(全6曲)**

グスタフ・レオンハルト(オルガン、チェンバロ、語り)



旧約聖書にある物語をクーナウが音楽で描いた作品。レオンハルトが、演奏に加え、クーナウ自身が曲初めに記したドイツ語による解説部分の語りも収録した名演かつ貴重盤。

2CD

録音:1970年2月

WPCS-16143/4

no.39 **J.S. バッハ:チェンバロ協奏曲集**

H.ドリュス、L.F.タリアヴィーニ、スグリッチ、Y.ル・ガイヤール(チェンバロ)  
ドロット・ニングホルム・バロック・アンサンブル



チェンバロの名手が、フランスの貴重な名器を駆使して録音した、バッハの協奏曲集。各パート1人による弦楽アンサンブルで、バッハ当時の演奏が再現されている。

3CD

録音:1978年5月

WPCS-16148/50

no.34 **シャルパンティエ:9つのルソン・ド・テネブレ**

クルト・ヴァイダー(バス) ミシェル・ヴェルシェーヴ(バス)  
ルイ・ドゥヴオ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ



ルソン・ド・テネブレ~復活祭に先立つ聖週間の、聖木曜日から聖土曜日の3日間行われる朝課。シャルパンティエがイタリアン・スタイルを取り入れた、画期的作品。

2CD

録音:1984年4月

WPCS-16137/8

no.36 **ルクレール:2つのヴァイオリンのためのソナタ集 作品3 & 12**

キアーラ・バンキーニ(ヴァイオリン)  
ジョン・ホロウエイ(ヴァイオリン)



フランス・ヴァイオリン楽派の開祖ともいえるルクレールが2本のヴァイオリンのために作ったソナタ集。バンキーニ&ホロウエイというピリオド楽器の名手としてトップを走る2人による名演!

2CD

録音:1988年6月(CD 1)  
1989年9月(CD 2)

WPCS-16141/2

no.38 **シューベルト:ピアノ・ソナタ第16番 後期ピアノ・ソナタ集 他**

アンドレアス・シュタイアー(フォルテピアノ)



声部進行の細部まで明確にし、ダイナミクスのニュアンスを豊かにすることにより、異なる趣を描き出したシュタイアーの名演。1825年頃にウィーンで製作されたフォルテピアノを使用。

3CD

録音:1995年5月(CD 1)  
1996年5月、8月、9月(CD 2&3)

WPCS-16145/7

no.40 **テレマン:ターフェルムジーク(全曲)**

フランス・ブリュッヘン(指揮) コンチェルト・アムステルダム  
グスタフ・レオンハルト(チェンバロ)



ブリュッヘンやレオンハルトをはじめとする「古楽の巨匠」たちが、あえてモダン楽器を使って演奏した『ターフェルムジーク』。格調高い、永遠の名盤。

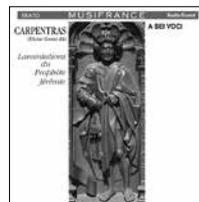
4CD

録音:1964年2月、6月(第1集) 1964年2月、3月、10月、12月(第2集)  
1964年12月、1965年1月(第3集)

WPCS-16151/4

no.41 **カルパントラ:エレミアの哀歌**

ア・セイ・ヴォーチ



ルネサンス期フランスの作曲家カルパントラ。代表作であり、16世紀ローマ教皇聖歌隊のレパートリーだった『エレミアの哀歌』を、充実した和声と声部の絶妙な扱いで復活させた!

録音:1988年

WPCS-16155

no.43 **ムリニエ:死者のためのミサ曲**

ミシェル・ラブレニ(指揮)  
アンサンブル・ヴォーカル・サジッタリウス ラ・フェニーチェ



フランス初期バロック音楽の作曲家であり、オルレアン大公ガストンの宮廷楽長でもあったムリニエ。のちのデュモン、シャルパンティエに至る、フランス教会音楽の系譜を理解させてくれる貴重な音楽集。

録音:1991年6月

WPCS-16157

no.45 **ビーバー:53声部の『ザルツブルク大聖堂ミサ曲』**

トン・コープマン(指揮)  
アムステルダム・バロック・オーケストラ&合唱団



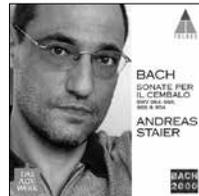
初演は、1682年にザルツブルク大聖堂とされている、53声部で構成される大曲。速いテンポと高いピッチ、盛大な残響のなかに、透明感あふれる室内楽が縦横にこだまする。初演と同じくザルツブルク大聖堂にて収録された、記念碑ともいえる録音。

録音:1998年5月

WPCS-16159

no.47 **J.S. バッハ:チェンバロ・ソナタ集(編曲ソナタ集)**

アンドレアス・シュタイアー(チェンバロ)



まるでバッハ自身による即興演奏のように息づく音楽! バッハの精神を汲みつつ、自由に、そして新鮮な感動をもって演奏するシュタイアーの意欲作。

録音:1997年11月、12月

WPCS-16161

no.42 **コストレ:「音楽」より22曲**

ア・セイ・ヴォーチ



シャルル9世時代に宮廷オルガニストとして活躍し、ジャンソンの作曲家としても知られるコストレの作品だけを収録している貴重なアルバム。19世紀ジャンソンがここまで満足度が高い形で演奏されているのは貴重。

録音:1988年4月、5月

WPCS-16156

no.44 **デュ・コーロワ:死者のためのミサ曲**

ミシェル・ラブレニ(指揮) エマニュエル・マンドラン(オルガン)  
アンサンブル・ヴォーカル・サジッタリウス ラ・フェニーチェ



後期ルネサンス時代のフランスの作曲家であるデュ・コーロワ作品集。柔らかく、情感豊かにデュ・コーロワの時代の音を再現している。

録音:1990年

WPCS-16158

no.46 **ファンダンゴ~スペインのチェンバロ音楽**

アンドレアス・シュタイアー(チェンバロ)



スペインの民俗音楽の代名詞でもある「ファンダンゴ」。独特の躍動感、強烈な強奏等によって、チェンバロが持つ能力を最大限に引き出した演奏。

録音:1998年6月

WPCS-16160

no.48 **モーツァルト、グルック:アリア集**

スーザン・グラハム(メゾソプラノ) ハリー・ピケット(指揮)  
エイジ・オブ・エンライトンメント管弦楽団



オリジナル楽器によるオーケストラをバックに、清々しくうたうスーザン・グラハム。彼女の真価が表出している名唱集。

録音:2000年8月~9月

WPCS-16162

no.49 J.B. ルイエ:組曲とレッスン

ルチアーノ・スグリツツイ(チェンバロ)



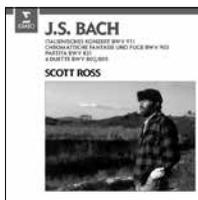
今ではフルート作品の作曲家として有名なルイエの作品中、とても珍しいチェンバロのための作品集。活き活きと表情を伝えるスグリツツイの演奏が光る名盤。

録音:1970年頃

WPCS-16163

no.51 J.S. バッハ:チェンバロ名演集

スコット・ロス(チェンバロ)



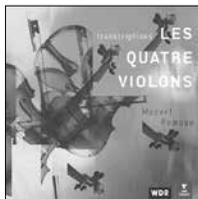
スコット・ロスならではのカリスマのチェンバロ奏法が発揮された、J.S. バッハへの完璧なアプローチ。

録音:1988年6月、1988年12月

WPCS-16165

no.53 モーツァルト、ラモー:魔法のヴァイオリン

キャトル・ヴィオロン



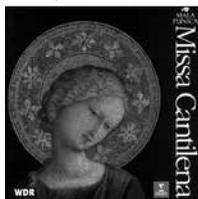
モーツァルト「魔笛」とラモーの歌劇からの曲を、ヒロ・クロサキ率いるキャトル・ヴィオロンが4つのヴァイオリンのために編曲。アレンジの面白さだけでなく、バロック・ヴァイオリン独特の音色が、作品に豊かさを与えた好企画。

録音:1998年1月

WPCS-16167

no.55 ミサ・カンティレーナ ~中世イタリアの幻想

ペドロ・メメルスドルフ(指揮) マーラ・ブニカ



これぞ中世音楽の醍醐味! 「ミサ・カンティレーナ」を、マーラ・ブニカがさらに再構成した、演奏史上実に有意義な作品。

録音:1996年6月

WPCS-16169

no.50 クレメンティ:ピアノ・ソナタとワルツ

ルチアーノ・スグリツツイ(フォルテピアノ)



自由闊達な演奏で、作品の真の魅力が明らかにされる。フォルテピアノによるクレメンティ作品集。

録音:1968年

WPCS-16164

no.52 モーツァルト:歌曲集

バルバラ・シュリツク(メゾソプラノ) ティニ・マトウ(フォルテピアノ)



バロック、古典派音楽のスペシャリストであるバルバラ・シュリツクが、モーツァルト歌曲全34曲から18曲を収録した名演盤。フォルテピアノによる伴奏は、古典鍵盤楽器奏者の名手、ティニ・マトウ。

録音:1990年5月

WPCS-16166

no.54 カルミナ・ブラーナ ~1300年頃の手写本より

トーマス・ピンクレー(解説、編集) ルネサンス合奏団



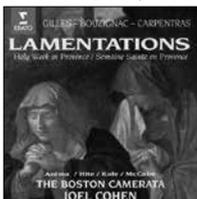
オルフ以前の「カルミナ・ブラーナ」。中世音楽を専門とするピンクレーが当時の手写本を解説・編集した、中世音楽演奏史の上で、実に貴重なアルバム。

録音:1969年~1973年頃

WPCS-16168

no.56 プロヴァンスの祈り ~エレミアの哀歌

ジョエル・コーエン(指揮) ポストン・カメラータ ポストン・スコラ・カントーラム



ジールによる聖週間のための「哀歌」を核として、グレゴリオ聖歌やプロヴァンス語による朗読をちりばめた企画盤。17世紀プロヴァンスの香り漂うアルバム。

録音:1994年4月

WPCS-16170

no.57 シャルパンティエ:テ・デウム / 聖母被昇天のミサ

アイヴォー・ボルトン(指揮) セント・ジェームズ・バロック・プレイヤーズ



アイヴォー・ボルトンがイギリスの古楽器奏者を集結し録音した名盤。大きなイベントのために書かれたもの、と解説されている「テ・デウム」では、音色の豊かさや壮大な構成力によって、解説通りに再現をおこなっている。

録音:1995年11月

WPCS-16171

no.59 ゴセック:レクイエム

ルイ・ドゥヴォ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ マースリヒト音楽院室内合唱団



18-19世紀フランスで活躍したゴセックの「レクイエム」。美しいメロディ・ラインが特徴的な作品で、湿度や深刻さを醸し展開するドゥヴォのセンスが光る1枚。

録音:1986年4月

WPCS-16173

no.61 ジルースト:ルイ16世の戴冠式のミサ曲

ルイ・ドゥヴォ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ ナミュール室内合唱団



フランス革命期に生きた作曲家ジルースト。革命を象徴するルイ16世の戴冠式のミサ曲を作曲する栄誉、王室室内楽総監督など、末期のブルボン朝を彩った作曲家の貴重な作品集。

録音:1989年2月

WPCS-16175

no.63 フェルディナント・シューベルト:レクイエム

ルイ・ドゥヴォ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ マースリヒト音楽院室内合唱団



F.シューベルトの実兄フェルディナントによる「レクイエム」。フランスの良き理解者であり、彼に影響を与えた兄でもあるフェルディナントのこの作品は、フランスが他界する2週間前に初演されたとされる秘曲。

録音:1987年2月

WPCS-16177

no.58 ルクレール:ヴァイオリン協奏曲集 他

ヤーブ・シュレーダー(ヴァイオリン) コンチェルト・アムステルダム



バロック・ヴァイオリンの名手シュレーダーが、実にシンプルにルクレールを演奏。ブリュッヘンによるノード作曲のリコーダーを含む協奏曲も収録。

録音:1978年、1968年

WPCS-16172

no.60 シャルパンティエ:死者のためのミサ曲

ルイ・ドゥヴォ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ ウェストフラムス・ヴォカール・アンサンブル



演奏されることが少ないシャルパンティエの「レクイエム」。3曲存在するうち、このアルバムには1690年頃に作曲されたとされる作品を収録。フラウト・トラヴェルソの甘い音色と合唱との絡みが、独特な美しい世界観をつくりあげる。

録音:1979年5月

WPCS-16174

no.62 J.S. バッハ:様々な作曲家からの編曲による協奏曲集

ミケーレ・バルキ(チェンバロ)



イタリアの様式を学ぶため、他の作曲家の様々な楽器のための協奏曲を「独奏用チェンバロ協奏曲」として編曲していたJ.S. バッハ。イル・ジャルディーノ・アルモニコのチェンバロ奏者バルキによる、張りのある音色とテンポ感で、また1つ斬新なバッチ像が描き出された。

録音:1998年12月、1999年3月

WPCS-16176

no.64 メキシカン・バロック1 ~ミサと哀歌

シャンティクリア



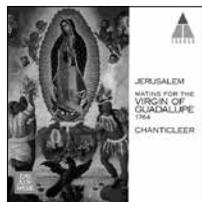
全員男声による合唱団「シャンティクリア」によるメキシコにおけるバロック音楽。バロック期の新大陸の音楽的な中心地はメキシコだったことを認識させられる演奏。

録音:1993年6月

WPCS-16178

no.65 メキシカン・バロック2

シャンティクリア



WPCS-16179

作曲家イグナシオ・デ・ヘルサレムは、イタリアに生まれ、1742年にメキシコに移った。その新天地で書かれた音楽。ラテン系独特のマリア信仰に基づく音楽は、温もりに満ちた楽曲として残っている。

録音:1997年7月

2CD

no.67 蟹

タブラトゥーラ



WPCS-16182

中世の吟遊詩人のような不思議な世界観が心地よく耳をくすぐる…。

録音:1999年

no.69 フィオッコ:ミサ・ソレムニス

ルイドゥヴォ(指揮) ムジカ・ポリフォニカ  
西フランドル声楽アンサンブル



WPCS-16184

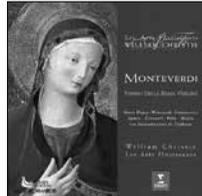
イタリア音楽とフランス音楽の様式を結び付け、ギャラント様式の要素を取り入れたフィオッコの宗教作品の中でも最大にして最高の傑作!

録音:1984年4月

2CD

no.71 モンテヴェルディ:  
聖母マリアの夕べの祈り

ウィリアム・クリスティ(指揮)  
レザール・フロリサン



WPCS-16187/8

最新(当時)の研究成果を反映し、作品自体の真価を表出させた名演。

録音:1997年7月

2CD

no.66 パーセル:アセンズのタイモン  
／ダイオクリージャン

ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)  
イングリッシュ・バロック・ソロイスト モンテヴェルディ合唱団



WPCS-16180/1

戯曲の内容を完璧に把握し、美しい音楽の流れを見事に作り出した、ガーディナーの名演。

録音:1987年12月

2CD

no.68 放浪

タブラトゥーラ



WPCS-16183

「快樂聴覚」をテーマに、時空を飛び越え、新たな世界観を提示。懐かしさに包み込まれる意欲作。

録音:2001年

no.70 ラモー:花飾り／ゼフィーール

ウィリアム・クリスティ(指揮) カペラ・コロニエンシス  
レザール・フロリサン の合唱団員



WPCS-16185/6

フランス・バロック期のラモー作品を、クリスティがカペラ・コロニエンシスとともに復活させた、音楽史視点からも意義深いアルバム。

録音:2000年1月

2CD

no.72 ペルゴレージ:  
聖母マリアの夕べの祈り

エドワード・ヒギンボトム(指揮) オックスフォード・ニュー・カレッジ合唱団  
アカデミー・オヴ・エンシェント・ミュージック



WPCS-16189/90

18世紀前半にナポリで活躍した天賦の天才ペルゴレージの代表作。ヒギンボトムが当時の雰囲気を見事に復活させた!

録音:2002年7月

2CD

no.73 J.S.バッハ:リュート作品集  
～リュートとラウテンヴェルクによる

ルーカ・ピアンカ(リュート)  
ミケーレ・バルキ(ラウテンヴェルク、チェンバロ)



WPCS-16191/2

バッハがラウテンヴェルクを想定して作曲したとされる作品をその想定通りに再現した、意義深い録音。

録音:1998年7月、12月

2CD

no.75 J.S.バッハ:  
イギリス組曲 & フランス組曲

アラン・カーティス(チェンバロ)



WPCS-16195/7

ヘンデル・オペラ復興の立役者として知られるアラン・カーティスによるバッハのチェンバロ独奏作品。創意あふれる意欲作。

録音:1979年7月

3CD

no.77 メンデルスゾーン:  
弦楽のための交響曲全集

コンチエルト・ケルン



WPCS-16201/3

メンデルスゾーンが12~14歳の時の作品。オリジナル楽器の弦による鮮烈な響きで、これまでの作品イメージを一新させた名盤。

録音:1994年~1996年

3CD

no.79 J.S.バッハ:  
チェンバロ協奏曲集

フランス・ブリュッヘン(フラウトラヴェル) マリー・レオンハルト(ヴァイオリン)  
グスタフ・レオンハルト(チェンバロ、指揮) レオンハルト・コンソート



WPCS-16207/9

今日の古楽隆盛の基盤を築いたレオンハルトが、バッハ時代の編成、楽器、奏法にのっとり初めて録音した作品。演奏の真意がストレートに伝播する名演。

録音:1967年

3CD

no.74 モーツァルト:ピアノ協奏曲  
第9、17、18、19番

アンドレアス・シュタイアー(フォルテピアノ)  
コンチエルト・ケルン



WPCS-16193/4

鬼才シュタイアーが豊かにうたう、モーツァルトの協奏曲集。

録音:1995年3月、2000年1月

2CD

no.76 J.S.バッハ:  
マタイ受難曲(2000年録音)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)  
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス



WPCS-16198/200

2000年、アーノンクールが30年の時を経て再録音したマタイ。画期的な解釈と渾身の演奏で聴かせる名盤。

録音:2000年5月

3CD

no.78 モーツァルト:  
歌劇「魔笛」(全曲)

トン・コープマン(指揮)  
アムステルダム・バロック・オーケストラ



WPCS-16204/6

オリジナル楽器による「魔笛」(全曲)の初録音作(1982年録音)。バロック歌手を起用し、当時の発声法、演奏法、演技、舞台装置などを復興させて演奏された貴重なライブ盤。初CD化。

録音:1982年

3CD

no.80 モーツァルト:  
ヴァイオリン・ソナタ集(全16曲)

ヒロ・クロサキ(ヴァイオリン)  
リンダ・ニコルソン(フォルテピアノ)



WPCS-16210/3

初期、中期、後期と、作曲年代に応じて3種の弓を使い分けするなど、時代と同化すべく、強いこだわりを持って録音した名盤。レコード・アカデミー賞受賞作品。

録音:1991年~1993年、1995年

4CD

オリジナル 第1回 40タイトル (2015年3月11日発売)

Original Period Instrumental Series

No.	タイトル	アーティスト	品番	ページ
1	ヴィヴァルディ：四季	イル・ジャルディーノ・アルモニコ	WPCS-16101	2
2	戦いと嵐〜ピーパー&ロック作品集	イル・ジャルディーノ・アルモニコ	WPCS-16102	2
3	ヘンデル：イタリアン・カンタータ集	イル・ジャルディーノ・アルモニコ	WPCS-16103	2
4	ヴィヴァルディ：リュート&マンドリンのための協奏曲集	イル・ジャルディーノ・アルモニコ	WPCS-16104	2
5	アラウホ：オルガン作品集	オディル・バイユー	WPCS-16105	2
6	カリッシミ：最後の審判/ヨナス、イエフタ	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16106	2
7	ヘンデル：バレエのための音楽集	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16107	2
8	F.クーブラン：コレリリ讀/劇場用コンセル/リュリ讀	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16108	2
9	D.スカララッティ：スターバト・マーテル	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16109	3
10	パーセル：聖チエチーリアの祝日のオード	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16110	3
11	シャルバンティエ：真夜中のミサ曲	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16111	3
12	F.クーブラン：ルソン・ド・テネブレ	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16112	3
13	シャルバンティエ：ヴェルサイユの楽しみ	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16113	3
14	モンドンヴィル：グラン・モテ集	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16114	3
15	フォルクレ：クラヴサン作品集	トン・コープマン	WPCS-16115	3
16	バレストリーナ：レクイエム/雅歌	ジャンティクリア	WPCS-16116	3
17	シューベルト：ディヴェルティメント集	アンドレアス・シュタイアー &アレクセイ・リュビモフ	WPCS-16117	4
18	3つのリコーダーのための作品集	フランス・ブリュッヘン	WPCS-16118	4
19	ニコラ・ド・グリニー：オルガン作品集	マリー=クレール・アラン	WPCS-16119	4
20	ヘンデル：オルガン協奏曲集	マリー=クレール・アラン	WPCS-16120	4
21	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ「悲愴」「月光」「ワルトシュタイン」	アレクセイ・リュビモフ	WPCS-16121	4
22	ヴィヴァルディ：協奏曲集	ジュリアーノ・カルミニョーラ	WPCS-16122	4
23	J.S.バッハ：宗教歌曲集(シメメリ編)	クリストフ・ブレガルドイエン 他	WPCS-16123	4
24	ショパン：バラード集 他	アレクセイ・リュビモフ	WPCS-16124	4
25	サリエリ&シュテファン：ピアノ協奏曲集	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16125	5
26	メンデルスゾーン：ピアノ協奏曲&二重協奏曲	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16126	5
27	ヴェネツィアのバロック	ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ	WPCS-16127	5
28	ラ・フォリア ~17世紀後半のイタリア・バロック音楽	ソナトーリ・デ・ラ・ジョイオーサ・マルカ	WPCS-16128	5
29	J.S.バッハ：トッカータ	曾根麻矢子	WPCS-16129	5
30	ジュ・レーム〜チェンバロに恋して	曾根麻矢子	WPCS-16130	5
31	J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲	イル・ジャルディーノ・アルモニコ	WPCS-16131/2 (2CD)	5
32	シャルバンティエ：二重合唱のための宗教曲集	トン・コープマン	WPCS-16133/4 (2CD)	5
33	ダンゲルベール：チェンバロとオルガンのための作品集	スコット・ロス	WPCS-16135/6 (2CD)	6
34	シャルバンティエ：9つのルソン・ド・テネブレ	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16137/8 (2CD)	6
35	太陽王ルイ14世の宮廷とオペラ座の舞曲 〜ヴェルサイユでダンス!	クリストフ・ルセ	WPCS-16139/40 (2CD)	6
36	ルクレール：2つのヴァイオリンのためのソナタ集 作品3&12	キアラ・バンキーニ&ジョン・ホロウェイ	WPCS-16141/2 (2CD)	6
37	クーナウ：聖書ソナタ(全6曲)	グスタフ・レオンハルト	WPCS-16143/4 (2CD)	6
38	シューベルト：ピアノ・ソナタ第16番 後期ピアノ・ソナタ集 他	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16145/7 (3CD)	6
39	J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲集	ユゲット・ドレフュス	WPCS-16148/50 (3CD)	6
40	テレマン：ターフェルムジーク(全曲)	フランス・ブリュッヘン	WPCS-16151/4 (4CD)	6

オリジナル 第2回 40タイトル (2015年4月8日発売)

Original Period Instrumental Series

No.	タイトル	アーティスト	品番	ページ
41	カルバントラ：エレミアの哀歌	ア・セイ・ヴォーチ	WPCS-16155	7
42	コストレ：「音楽」より22曲	ア・セイ・ヴォーチ	WPCS-16156	7
43	ムリニエ：死者のためのミサ曲	アンサンブル・ヴォカール・サジッタリウス	WPCS-16157	7
44	デュ・コーロフ：死者のためのミサ曲	アンサンブル・ヴォカール・サジッタリウス	WPCS-16158	7
45	ピーパー：53声部の「ザルツブルク大聖堂ミサ曲」	トン・コープマン	WPCS-16159	7
46	ファンダンゴ〜スペインのチェンバロ音楽	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16160	7
47	J.S.バッハ：チェンバロ・ソナタ集(編曲ソナタ集)	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16161	7
48	モーツァルト、グルック：アリア集	スーザン・グラハム	WPCS-16162	7
49	J-B.ルイエ：組曲とレッスン	ルチアーノ・スグリッツィ	WPCS-16163	8
50	クレメンティ：ピアノ・ソナタとワルツ	ルチアーノ・スグリッツィ	WPCS-16164	8
51	J.S.バッハ：チェンバロ名演集	スコット・ロス	WPCS-16165	8
52	モーツァルト：歌曲集	バルバラ・シュリック	WPCS-16166	8
53	モーツァルト、ラモー：魔法のヴァイオリン	キャトル・ヴィオロン	WPCS-16167	8
54	カルミナ・ブラーナ〜1300年頃の手写本より	トーマス・ピンクレー	WPCS-16168	8
55	ミサ・カンティレナー〜中世イタリアの幻想	ペドロ・メメルスドルフ	WPCS-16169	8
56	プロヴァンスの祈り〜エレミアの哀歌	ボストン・カメラータ	WPCS-16170	8
57	シャルバンティエ：テ・デウム/聖母被昇天のミサ	アイヴォー・ポルトン	WPCS-16171	9
58	ルクレール：ヴァイオリン協奏曲集	ヤープ・シュレーダー	WPCS-16172	9
59	ゴセック：レクイエム	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16173	9
60	シャルバンティエ：死者のためのミサ曲	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16174	9
61	ジルースト：ルイ16世の戴冠式のミサ曲	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16175	9
62	J.S.バッハ：様々な作曲家からの編曲による協奏曲集	ミケーレ・バルキ	WPCS-16176	9
63	フェルディナント・シューベルト：レクイエム	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16177	9
64	メキシカン・バロック1〜ミサと哀歌	ジャンティクリア	WPCS-16178	9
65	メキシカン・バロック2	ジャンティクリア	WPCS-16179	10
66	パーセル：アセンズのタイモン/ダイオクリージャン	ジョン・エリオット・ガーディナー	WPCS-16180/1 (2CD)	10
67	蟹	タブラトゥーラ	WPCS-16182	10
68	放浪	タブラトゥーラ	WPCS-16183	10
69	フィオッコ：ミサ・ソレムニス	ルイ・ドゥヴォ	WPCS-16184	10
70	ラモー：花飾り/ゼフィール	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16185/6 (2CD)	10
71	モンテヴェルディ：聖母マリアの夕べの祈り	ウィリアム・クリスティ	WPCS-16187/8 (2CD)	10
72	ベルゴレージ：聖母マリアの夕べの祈り	エドワード・ヒギンボトム	WPCS-16189/90 (2CD)	10
73	J.S.バッハ：リュート作品集 〜リュートとラウテンヴェルクによる	ルーカ・ピアンカ&ミケーレ・バルキ	WPCS-16191/2 (2CD)	11
74	モーツァルト：ピアノ協奏曲第9、17、18、19番	アンドレアス・シュタイアー	WPCS-16193/4 (2CD)	11
75	J.S.バッハ：イギリス組曲&フランス組曲	アラン・カーティス	WPCS-16195/7 (3CD)	11
76	J.S.バッハ：マタイ受難曲(2000年録音)	ニコラウス・アーノンクール	WPCS-16198/200 (3CD)	11
77	メンデルスゾーン：弦楽のための交響曲全集	コンチェルト・ケルン	WPCS-16201/3 (3CD)	11
78	モーツァルト：歌劇「魔笛」(全曲)	トン・コープマン	WPCS-16204/6 (3CD)	11
79	J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲集	グスタフ・レオンハルト	WPCS-16207/9 (3CD)	11
80	モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ全集(全16曲)	ヒロ・クロサキ	WPCS-16210/3 (4CD)	11

